



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送りしています

第 129 号(2016 年 12 月 15 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

=====
今年の漢字は「金」でした。皆様にとってはどのような一年だったでしょうか。

○改革の 2 つの大波～60 分 4 学期制とカリキュラム改革～

法学部副学部長・教務委員長 黒神直純

今年度は法学部に 2 つの大波が押し寄せています。1 つ目について、一昨年に岡山大学が、「スーパーグローバル大学 (SGU)」として、文科省の事業に採択されたのは記憶に新しいと思います。岡山大学も日本の 37 大学の 1 つとして、10 年間この名の下に補助金を受けることになりました。ここで謳われた 160 以上の改革案のうち教育面での目玉として、60 分 4 学期制が導入されました。従来、学生は 1 回 90 分間で半期 (15 回) 学習すれば 30 時間学習したこととなり 2 単位を取得できました。90 分で 120 分間学習した、と見なしていたわけです。未だに日本のほとんどの大学がこの差 30 分間を水増しした制度をとっています。これに対して岡山大学は全国に先駆けて、「学生も教員も 120 分間きちんとやります！」と宣言しこの制度を導入したのです。

話変わって、2 つ目の大波については、昨年 6 月に、国立大学文系学部の組織改廃を迫る通知が文科省から出されたのも記憶に新しいと思います。岡山大学も例にもれず「文系学部廃止」の衝撃を受け、文、法、経済学部の統合や、「グローバル〇〇学部」、「地域〇〇学部」といった新学部設置などの可能性につき決断を迫られました。文系学部廃止、法学部がなくなるのか、それだけは避けなければ、ということで、1 年以上あれこれ議論した結果、なんとか各学部は存続しその代わりに新カリキュラムを導入し、今まで以上に目に見える形で社会のニーズに合った教育を実施するようにするという事で騒ぎは収まりました。その結果、今年度から法学部では、進路に合わせて「公共法政コース」、「企業法務コース」、「法律専門職コース」の 3 コースを設け、全学年少人数教育を徹底し、英語による授業も含めグローバル系科目を充実させました。

今年度法学部は、この未曾有の 2 つの大波をもろに受けています。学生側では、科目数が増えた分試験回数が増えたり、各学年に配置された科目のバランスが悪いため、他学部科目の履修に流れたり、今までにない混乱が生じています。教員側にも、授業のやり方を再考したり、60 分間では十分な試験ができないなどの意見が見受けられます。他方で、授業時間が短縮されたことで学生の集中力が高まったり、60 分授業を休憩をはさんで続けて実施することで、アクティブラーニングを実施しやすくなったなどのメリットもあります。

この 1 年間の教務運営を振り返り、できる限りデメリットは改善し、メリットは伸ばすように検討しなければなりません。法学部がこの大波に飲まれることなく、逆にこの大波にうまく乗って前進していくこと、これこそが今年度最大の課題と認識しております。

-
- ・ 本メルマガは、毎月 1 回程度配信しています。
 - ・ 法学部の詳細情報に関しては、HP も併せてご覧ください。
法学部 HP <http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/index.html>
 - ・ 本メルマガには返信なさないようにお願いします。
 - ・ 本メルマガの登録・解除は、以下の URL にてお願いします。
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/local/mail/index.html>
 - ・ ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho-mailmaga@law.okayama-u.ac.jp まで。